

# 河川環境管理財団ニュース

News Letter from Foundation of River & Watershed Environment Management

## ニュースの項目

“連続性”という視点に立って

森・川・海のつながりを重視した  
豊かな海域環境創出方策とりまとまる

河川水質の新しい指標について  
～親しみやすく、わかりやすい指標～

子どもの水辺の拠点  
「北海道エールセンター」が完成

「子どもの水辺」ブロック連絡会議の開催

「汽水域の河川環境の捉え方に関する手引書」  
とりまとまる

第 2回 河川環境管理財団  
研究発表会の開催について

世界子ども水フォーラム・フォローアップ in  
宮城開催決定 !!

「プロジェクトWET」研修会開催される

富士川水系河川整備計画の策定に向けて

個体群存続可能性分析 (PVA)による  
ミティゲーション評価について

淀川水系環境委員会について

川の歴史を見つめる木曾川文庫

<sup>しべつ</sup>  
士別河川広報室について

河川敷地に家畜の放牧について  
～北海道らしい社会資本整備に関する検討～

大阪子どもの水辺ネットワーク  
「水辺体験教室」を開催

第 11回 河川整備基金助成事業の  
成果発表会開催

河川整備基金の事業が決定

河川美化・緑化調査研究助成  
～平成 16年度スケジュール～

河川整備基金事業の成果発表会開催

「河川愛護月間」推進標語の募集

川の写真コンクール作品募集

河川整備基金にご協力ありがとうございます  
－ 300億円をめざして造成を続けております。－

財団の体制

# 河川環境管理財団ニュース

News Letter from Foundation of River & Watershed Environment Management

## “連続性”という視点に立って

私たちは今まで河川の環境を改善する上で、いろいろなことを実施してきました。例えば、水量や水質のことであり、魚類や水生生物であり、水辺の生物であったり、ダム堆砂や、富栄養化であったり、きわめて多様でありました。これらのどれが、他のどれと関連して、何を基本として考えよいかを明らかにすることが、河川の環境をみんなで考えるときに重要なことではないかと思えます。

今年度は、“連続性”という言葉で統一した見方ができないかということを考えています。

つまり、今まで河川を山から海までの間で考えた場合、従来から多くの人の手が入ることによって、水や土砂や生物の連続性が大きく改変されたり、ときには遮断されているところもあります。このような状態を健全な連続性に改善することによって、望ましい河川環境を得ることができるのではないかと思います。

連続性の対象となるものとして、水、土砂、生物がまず思い浮かびます。

水については、平常時水の流れていない区間を解消するだけでなく生物などの健全な連続性を確保するためにも、一定流量を常に確保することに加えて、その変動をも考える必要があります、その試みも各地でされているところです。土砂についてもダムの堆砂をすぐに思い浮かべますが、単にダムから土砂を排除するだけでなく、下流への土砂供給を考えて、連続性の確保という観点から種々試みがされつつあります。

また生物については、堰などへの魚道の設置が、近年積極的に取り組まれ、魚ののぼりやすい川づくりとして施策が定着しつつあります。魚類だけ

ではなく、河川の生物の連続性を改善することが、今後もさらに必要となってくると思えます。

水と土砂と生物の河川における連続性を考えるだけでなく、最近では物質の連続性についても注目する必要があると言われていました。海浜の貧栄養化が進んでいると言われていたり、海浜への珪酸の補給が必要だと言われていたりします。砂防ダムの堆積土砂を海浜部へ持っていくことによって水産資源により影響を与えることを実験的に検証しようという試みがされています。

また珪酸の海浜への供給によって海浜の海草や魚類の繁殖に効果があるということも言われています。このような物質の山から海への一貫した連続性の認識は、水、土砂、生物に加えて今後重要な要素となってくると思えます。

さらに連続性は、山、川、海という縦方向のイメージだけでなく、堤内地、高水敷、低水路という横断方向の連続性についても、その改善が必要です。さらに河川だけでなく、堤内地の森林、農地、市街地などとの連続性にまで、イメージを拡大することができます。

いずれにしても、河川または流域の中で、水、土砂、生物、物質の連続性の健全化をはかるという視点から、従来の様々な施策を整理し、新たな施策を展開していきたいと思っています。



国土交通省 河川局河川環境課長  
坪 香 伸

## 森・川・海のつながりを重視した豊かな海域環境創出方策とりまとまる

海域の漁場環境という視点から、森・川・海の望ましい状態を捉えて、それを実現するための方策を検討することにより、今後の河川計画と管理に資することを目的として、国土交通省河川局、水産庁および林野庁の連携による調査が実施されました。本調査では、既往資料の収集整理や現地調査の結果をもとに、森・川・海を通じた栄養分の供給機構とそれが漁場海域の生物に与える影響等を調査し、漁場海域の健全な生態系の維持・構築のための今後の整備の方向性や施策について検討が行われ、この検討結果がとりまとめられ、平成16年4月に公表されました。（担当：研究第2部）



### 河川水質の新しい指標について

～親しみやすく、わかりやすい指標～

**現状における河川水質管理の課題点**

- ①有機性汚濁指標(BOD)だけでは、河川水質を適切に評価できない
- ②川の365日(洪水時や濁水時も含む)に対応した指標が必要
- ③住民にわかりやすい河川水質の指標がない
- ④住民と連携した水質管理が必要
- ⑤それぞれの河川の特徴を反映したきめ細かい指標が必要
- ⑥河川法の目的である「河川環境の整備と保全」に対応する指標が必要
- ⑦下流域への影響を評価できる指標が必要
- ⑧人および生物に対するリスクを評価できる指標が必要

**新たな4つの視点**

- ①人と河川の豊かなふれあいの確保のための水質管理
- ②豊かな生態系の確保のための水質管理
- ③利用しやすい水質の確保のための水質管理
- ④下流域や滞留水域に影響の少ない水質の確保のための水質管理

河川環境を構成する水質管理は、流水の清潔の保持、人と川との豊かな触れ合いの確保、動植物の生息・生育地の保全等の観点からますます重要となっています。

このため、国交省河川局と都市・地域整備局下水道部が連携して、学識経験者を交えた「水質管理検討会」を設置し、水質管理に関する現状と課題、対応すべき方向性を含めた今後の河川水質管理のあり方について検討が行われ、河川水質の新しい指標（案）がとりまとめられました。

今後、全国のモデル河川において試行調査が実施さ

れ、その結果を踏まえた見直しを行い、平成17年度以降に全国一級河川で本格的に実施される予定となっています。（担当：研究第2部）

### 子どもの水辺の拠点 「北海道エールセンター」が完成



北海道エールセンターは、(財)日本宝くじ協会の助成により、平成16年3月に完成し、4月2日に「帯広NPO28サポートセンター」への引渡し式が行われました。また、6月6日に、完成披露祝賀式が開催され、関係者をはじめ地元の多くの方々が参加されました。

現在では、子どもたちを対象とした環境学習や、市民団体による十勝川、札内川でのカヌー下りなどが開催されています。また住民の憩いの場として多くの人が訪れています。

今後は、より多くの方に利用され、愛される拠点としての発展が期待されています。

(担当：研究第一部、北海道事務所)

## 「子どもの水辺」 ブロック連絡会議の開催

国土交通省、文部科学省、環境省は、子どもたちの河川の利用を促進し、地域における体験活動の充実を図るため、「子どもの水辺再発見プロジェクト」を進めています。この施策をさらに推進し、関係部局、市民団体等の情報の共有、連携強化を図るため、名古屋市・大阪市・福岡市・仙台市、東京都において、「子どもの水辺」ブロック連絡会議を開催してきました。

今年度も、以下の5地域をはじめ順次各地域で開催していく予定です。

中国ブロック連絡会議（7月2日開催）

場 所：KKR広島 1F孔雀の間  
〒730-0004 広島市中区東白島町 19-65

北陸ブロック連絡会議（7月8日開催）

場 所：新潟グランドホテル 3 悠久の間  
〒951-8052 新潟市下大川前通3ノ町  
2230番地

四国ブロック連絡会議（開催日未定）

北海道ブロック連絡会議（ " ）

関東ブロック連絡会議（ " ）

詳細については「子どもの水辺サポートセンター」  
ホームページをご覧ください。

<http://www.mizube-support-center.org/>

（担当：研究第1部）



【分科会での活発な意見交換・九州ブロック】



【東京都の取り組みを発表・東京ブロック】

## 「汽水域の河川環境の捉え方に関する 手引書」とりまとまる

汽水域は海と川の両方からの影響を受けて複雑な変動をすることから、埋立てや掘削など人為的な改変による河川環境への影響を事前に予測するために必要な調査や分析手法などが体系化されていませんでした。また、汽

水域は人為的な改変の影響を受けた場合には、淡水と海水のバランスが崩れ、環境影響が出やすい場所ですが、影響予測の調査や分析は十分ではありませんでした。

そこで、平成14年度より専門家からなる「汽水域の河川環境の捉え方に関する検討会」を設置し、汽水域の河川環境における特徴や物理・化学的現象および人為的改変とレスポンスの関連、汽水域における河川環境の状況およびそれを形成する物理・化学的現象を把握し、人為的改変によるレスポンスを予測するための調査・分析手法が整理され、「汽水域の河川環境の捉え方に関する手引書」としてとりまとめられました。

汽水域の河川環境の保全に関する手引きはこれが初めてであり、本手引書により、中小河川も含めた現場における河川環境の適切な把握と管理に役立つことが期待されます。（担当：研究第2部）

## 第2回 河川環境管理財団 研究発表会の開催について

期日 平成16年7月20日(火) 13:00~18:00

場所 砂防会館 別館1階シェーンバッハ・サポール「信濃」

交通 地下鉄永田町駅(有楽町線・半蔵門線・南北線)  
4番出口徒歩1分

### プログラム

- 司会：理事兼研究一部長 山本雅史
- ・講演 「河道・環境の維持管理と情報」  
河川環境総合研究所長 山本晃一
  - ・研究発表1 「河川環境教育の推進方策検討」  
研究1部 研究員 佐藤聖介
  - ・研究発表2 「河川伝統工法導入ガイドラインの検討」  
北海道事務所 業務係長 小本智幸
  - ・研究発表3 「河川・砂防における木材活用法に関する研究」  
名古屋事務所 調整係長 加藤俊夫
  - ・研究発表4 「大河川の正常流量設定に関する検討」  
研究3部 主任研究員 鶴田康幸
  - ・研究発表5 「堤防植生による花粉症対策の検討」  
研究4部 次長 谷村大三郎
  - ・研究発表6 「汽水域における河川環境の捉え方に関する検討」  
研究2部 主任研究員 大野幸正
  - ・研究発表7 「流況・位況変動と水生生物の生態行動に関する研究」  
研究部(大阪研究所) 研究員 中西史尚
  - ・閉会・挨拶 河川環境総合研究所長 山本晃一

以上の内容で行いますので、参加希望の方はお早めにご連絡下さい。

お問い合わせ 研究1部 木村 企画調整部 須藤  
TEL 03-3297-2644 FAX 03-3297-2677

## 世界子ども水フォーラム・フォローアップ in 宮城開催決定 !!



昨年広島で開催された「世界子ども水フォーラム・フォローアップ in 広島」の様子

昨年3月の「第3回世界水フォーラム」の主要セッションとして開催した「世界子ども水フォーラム」に参加した日本の子どもたちから、人間が生活し、生きていく上で不可欠な水について、子どもの立場からも多くの仲間と意見交換や情報交換をし、ネットワークの輪を広げていくべきとの意見が出され、昨年10月に広島においてフォローアップ大会を開催し、大きな成果を上げることが出来ました。

今年も「世界子ども水フォーラム・フォローアップ in 宮城」を宮城県花山村で開催します。全国の水に関心のある中学生・高校生の皆さんの参加を期待しています！

開催日時：2004年7月30日～8月1日

場 所：宮城県栗原郡花山村 国立花山少年自然の家及びその周辺地域

日 程：7月30日 オリエンテーション 開会式 交流会

31日 フィールドワーク 分科会

8月1日 閉会式 さよなら交流会

世界子ども水フォーラム・フォローアップ in 宮城 実行委員会事務局

TEL: 03-3297-2644

URL: <http://www.mizube-support-center.org/cwwf-f/2004/index.htm>

(担当：研究第1部 吉野、花田、菅原)

## 「プロジェクトWET」研修会開催される

プロジェクトWETとは、アメリカで開発された水に関する学習プログラムで、日本では、当財団が「プロジェクトWETジャパン」の事務局として活動してい



ます。これは、ただ単に知識を教えるのではなく、子どもたちに行動させながら、水について様々なことを考えさせるのが特徴です。

4月17,18日に幕張においてファシリテーター（エドゥケーターを養成する者）講習会、4月20日に名古屋、4月22日に東京でエドゥケーター（子どもたちを直接指導する者）講習会を開催しました。この研修会には、アメリカより講師を招き、ファシリテーター26名、エドゥケーター49名が研修を修了しました。

今後は、今回修了したファシリテーターが全国各地でアクティビティの実践が行われるほか、エドゥケーター講習会を開催していきます。

詳しくは「プロジェクトWET JAPAN」

<http://www.mizube-support-center.org/project-wet/index.htm> をご覧ください。

(担当：研究第1部 佐藤、菅原)

## 富士川水系河川整備計画の 策定に向けて

富士川水系河川整備基本方針を受けて、平成16年2月の富士川技術検討会において「富士川水系河川整備計画」の原案が承認されました。

治水では、戦後最大規模の洪水を対象にした堤防の強化や浸水防止対策等の実施。利水では、関係機関と連携した流水の適正な利用。また、河川環境面では、良好な自然に誰もがふれあえる場の整備や、歴史的施設・山間溪流美に優れた景観に配慮した河川の整備を図るとともに、多様な生物の生息・生育環境を保全する等の内容になっています。

今後、この原案をもとに関係機関への意見照会や協議等が行われ、整備計画が正式に策定される予定です。  
(担当：研究第3部)

## 個体群存続可能性分析(PVA)による ミティゲーション評価について

国道50号下館バイパスの小貝川常盤橋建設に伴い、絶滅危惧植物であるカラコギカエデの代償ミティゲーション効果の評価を行いました。

この場所は、小貝川沿いにあるわずかに2箇所のカラコギカエデ生育地の1つでしたが、架橋工事により生育地が減少するため、ミティゲーションとして新たな生育地をつくり、そこに現存個体の移植などを行うこととなりました。

このミティゲーション効果の評価に際しては、過去4年間に行われた現地調査結果および数理モデルを用いたシミュレーションを行い、現在のカラコギカエデの個体数が将来5年後にどのように変化するかを予測しました。その結果は、今回の保全対策を行った場合と比較して、同等あるいはそれよりも多いという結果が得られました。この一連の解析は「個体群存続可能性分析(PVA)」と呼ばれる、国内ではまだ先行事例が少ない新しい手法で、環境アセスメントなど様々な場面で利用が可能だと考えられます。

(担当：研究第4部)



カラコギカエデの花

カラコギカエデの種子



## 淀川水系環境委員会について

「淀川水系河川整備計画基礎案」に示された、河川環境に関する具体的な整備内容について技術的指導、助言を得るために、昨年度、「猪名川自然環境委員会」、「木津川上流河川環境研究会」が設立されました。同様の目的で、「琵琶湖及び周辺河川環境に関する専門家グループ制度」が発足しており、大阪研究所では、事務局としてこれらの運営にあたっています。



第2回 木津川上流河川環境研究会 現地視察

また、平成9年度に設立された「淀川環境委員会」では、水域環境、陸域環境、汽水域環境、環境構造、河川環境利用の5つの部会を構成し、生態環境をはじめ、人の利用と河川環境、河川の断面構造や土砂輸送、流量管理などにも注目し、より幅広い視点からの自然環境の改善策の研究を進め、具体的な提案等も行っていきます。  
(担当：大阪研究所)

## 川の歴史を見つめる木曽川文庫



明治時代に木曽三川の改修が始められてから100周年を記念し、昭和62年に近代治水百周年記念事業が行われました。木曽川文庫は、この事業の一環として誕生したもので、主として木曽三川に関する各分野の図書・研究論文等の収集保存とその利用を目的としています。木曽三川が流れる濃尾平野は、太古の昔より人々が水とのたたかいを繰り返し、反面その恵みを受けて暮らしてきたところです。輪中・宝暦治水・明治改修など治水に関わる資料を重点に収蔵し、館内での展示や機関紙KISSOの発行など、治水事業の情報発信拠点として活躍しています。

また、周辺は河川公園に整備され、平成12年に国の重要文化財に指定された船頭平閘門などがあり、近年では小学生の総合学習やサークル活動の場としての利用が多く見られます。訪れる人々は年々増え、年間約5万人を超えています。

木曽川文庫ホームページ <http://www.kisogawa-bunko.cbr.mlit.go.jp/>

(担当：名古屋事務所)

## しべつ 士別河川広報室について

北海道士別市の天塩川に架かる九十九橋上流に、天然芝を張ったサッカー場、合宿の里・士別、水郷公園など市民の憩いの場として利用されている『つくも水郷緑地』があります。この中に「士別河川防災ステーション」を北海道開発局旭川開発建設部と士別市が共同で建設を進めています。



この防災ステーションの施設の1つとして、川に関する総合的な学習の場とする目的で、河川広報室を設置する予定です。天塩川流域全体の様子を模型と映像で見ることのできるジオラマや、天塩川の歴史、生き物、水質情報等をパソコンで検索できるコーナー、河川関係図書のコーナーなどの整備が計画・検討されています。今年3月には関係者への説明会も実施し、平成17年度から順次オープンする予定です。

(担当：北海道事務所)

## 北海道らしい社会資本整備に関する検討 河川敷地に家畜の放牧について

北海道開発局では、北海道らしい社会資本のあり方と整備についての検討を進めています。その一環として、畜産王国北海道の広大な河川敷地に、家畜の放牧の可能性について検討するものです。

河川を地域の財産として捉え、北海道らしい河川のあり方や河川敷地の活用(牧歌的景観の創造)についてのワイズユースを探ることが目的です。



河川敷に放牧している例(利根川下流部)

来年度から予定している放牧実験に向け、酪農家のメリットの有無、堤防・河川水質への影響、景観、洪水時の対応等々、委員会を設立して検討します。

(担当：北海道事務所)

## 大阪子どもの水辺ネットワーク 「水辺体験教室」を開催

去る3月28日に、大阪子どもの水辺ネットワーク初主催の行事「水辺体験教室」が大阪水生生物センター(大阪府寝屋川市)とその付近の水路で行われました。“水辺の活動サポートなどのヒントを学ぼう”と題して行われ、約80名の参加者がありました。当日の企画や運営は、当会が中心となり実施され、また、地域で活動をされている水辺に親しむ会、淀川愛好会の方々、水生生物センターや大阪府の職員の方にも協力して頂きました。第一部では淀川左岸水路での生きもの調査会を行い、用水路の生きものや採り方を学びました。第二部では水生生物センターの施設を利用して水辺遊びの安全講習会や魚釣り、ヨシのすだれ作りなどを体験しました。

今後は、ネットワーク交流会(6月5日開催)、水辺の初級指導者講習会、他の市民団体の活動への参加などを予定しています。なお、大阪子どもの水辺ネットワークについてのホームページもご覧下さい。

(URL: <http://www.osaka-kodomo-mizube.net/>)

(担当：研究第5部(大阪研究所))



大阪水生生物センター近くの水路での生きもの調査



水辺の遊び安全講習会

## 第11回 河川整備基金助成事業の 成果発表会開催

河川整備基金助成事業の成果(H14・15年)を対象とした発表会を開催する予定です。日程のみお知らせします。

開催期日：平成16年10月27日(水)、28日(木)  
場 所：発明会館ホール(港区虎ノ門)

(担当：研究第 部)

## 河川整備基金の事業が決定

平成16年度の河川整備基金の助成事業、基金事業については、去る5月12日の河川整備基金運営審議会、5月26日の理事会の審議等を経て決定しました。

助成事業費は昨年同額の5億円、基金事業費は1億3千7百万円で下記のとおりです。

1. 調査・試験・研究
    - 98件 141,900千円
    - 一般的助成 95件 128,800千円
    - 指定課題助成 3件 8,100千円
    - 緊急調査(追加募集) 5,000千円
  2. 環境整備対策
    - 6件 3,000千円
  3. 国民的啓発運動
    - 425件 355,100千円
    - 一般的助成 382件 336,700千円  
(うち総合的な学習時間における河川を題材とした活動 242件 23,100千円)
    - 継続的助成 43件 18,400千円
  4. 基金事業
    - 137,000千円
- 調査研究(4課題と海外緊急水害調査) 45,000千円  
 河川ライブラリー事業 40,000千円  
 河川環境教育の推進 27,000千円  
 河川整備推進啓発事業 25,000千円  
 (担当:研究第 部)

## 河川美化・緑化調査研究助成

### - 平成16年度スケジュール -

この調査研究助成は、ゴルファーからの募金を原資とする河川美化・緑化調査研究費によって、全国の大学および研究機関の個人またはグループの研究者を対象としています。昭和6年度に開始し、今年度で第19回になり、これまでに合計119件の助成を行いました。

今年も、7月7日に募集要項の配布と受付を開始し、9月末日に締切る予定です。

助成対象分野は、川に関係した

- イ) 良好な水辺を形成する、近自然工法に関する分野
- ロ) 植物と鳥、昆虫、小動物、魚類等の生息との関連に関する分野
- ハ) 水生植物と河川水質浄化との関連に関する分野
- ニ) 植物管理に関する分野
- ホ) 植物等の分布およびその関連に関する分野
- ヘ) 貴重植物種の保存に関する分野
- ト) 河川の美化・緑化および保全の普及・啓発に関する分野です。

『調査研究助成審査委員会(11~12月頃開催)』で助成事業が決定されます。研究期間は、1年間または

2年間とし、毎年1月から12月までとなっています。関連情報については、ホームページをご覧ください。  
[www.kasen.or.jp/kihu/annai/green/green.htm](http://www.kasen.or.jp/kihu/annai/green/green.htm)  
 (担当:企画調整部 桑原)

## 河川整備基金事業の成果発表会開催

平成14年・15年度に実施しました「流水・土砂の管理と河川環境の保全・復元に関する研究」の成果発表会を開催する予定です。

開催期日:平成16年12月16日(木)

場 所:発明会館ホール(港区虎ノ門)

(担当:研究第 部)

## 「河川愛護月間」推進標語の募集

身近な自然空間である河川への関心の高まりにちなみ、河川愛護の意識をより高めていくことを目的とし、各地域の皆さんが、川の自然、川と遊び、川と生活、川の美化など日頃から河川とかわる中で感じた「河川愛護月間」(7月)の推進標語を募集しています。

例《水辺にやすらぎ 心にゆとり》平成16年度推進標語

### 1. 応募方法

はがき応募:1枚に標語1点と標語の趣旨または川への思い(100字以内)および住所・氏名・電話番号・年齢・性別・職業(小・中学生は学年)を記入してください。詳細は国土交通省のホームページをご覧ください。

(<http://www.mlit.go.jp/river/index.html>)

締切日:平成16年9月20日(月)まで(当日必着)

応募資格:制限なし(一人一作品とします)

その他:応募作品は、自作・未発表のものに限ります。応募作品の使用・著作権は国土交通省に帰属します。

### 2. 発表方法

10月に決定後、入賞者には直接通知するとともに機関誌等に掲載します。

### 3. 作品使用

入賞作品は、1年度のポスター、チラシ等により「河川愛護月間」の推進に幅広く活用します。

### 4. 応募部門

学生の部(小・中学生)、一般の部(左記以外)

### 5. 賞(賞状および副賞)

最優秀賞1点、優秀賞4点(学生2、一般2)、佳作4点(学生2、一般2)

### 6. 問い合わせ先

国土交通省河川局治水課  
 03-5253-8111(内 35523)

(担当:総務部)

## 川の写真コンクール作品募集

川の写真コンクールは、河川愛護の思想を広く一般の方々に啓発するため、河川愛護月間の一環として開催され、本年は第24回を迎えました。皆さんの素晴らしい作品が、数多く寄せられることを期待しております。なお、今年からデジタルカメラでも応募できます。詳細につきましては <http://www.kasen.or.jp> をご覧下さい。

### 応募要領

- ・応募資格：関東地方に居住する小・中・高校生
- ・サイズ；カラーサービス判（デジカメも同じ）
- ・締切日；平成16年9月16日（当日消印有効）
- ・応募先：〒102-0071  
千代田区飯田橋郵便局留置  
「川の写真コンクール係」
- ・主催；国土交通省関東地方整備局  
(財)河川環境管理財団

## 河川整備基金にご協力ありがとうございます — 300億円をめざして造成を続けています。 —

お蔭様で、河川整備基金は、平成15年4月から16年3月までに約3千8百万円余のご寄付を頂き、16年3月末で約280億3千万円となっています。これも一重に皆様方のご協力の賜と感謝しております。

この基金は、皆様のご理解、ご協力を得て300億円をめざしています。今後ともご協力をお願い申し上げます。

イベント等で募金箱が必要なときは、当財団にお申し付け頂ければお送りさせていただきます。なお募金箱の回収及び寄付金につきましては、ご連絡頂ければ、当財団から回収に伺うか又は振込用紙等を送付させていただきます。

(担当：総務部)

## 財団の体制

現在の体制は下記のとおりです。  
今後ともよろしくお願い致します。

理事長	鈴木 藤一郎
常務理事	池田 東雄
常務理事	山本 雅史 (4月就任)
相談役	梅野 康行
研究顧問	吉川 秀夫
研究顧問	芦田 和男
研究顧問	村本 嘉雄 (4月就任)
研究顧問	江川 太郎
研究顧問	佐々木 寧
研究顧問	山口 甲
研究嘱託	中島 秀雄
河川環境総合研究所長	山本 晃一 (4月就任)
常任参与	花見 忱 (4月就任)
技術参与	佐藤 和明
総務部長	松下 寿彦
企画調整部長(兼)	山本 雅史 (4月就任)
研究第1部長(兼)	山本 雅史
研究第2部長	岸田 弘之
研究第3部長	小林 豊 (4月就任)
研究第4部長	戸谷 英雄
大阪研究所長(兼)	村本 嘉雄 (4月就任)
研究第5部長(大阪研究部長)	辻山 正甫 (4月就任)
子どもの水辺サポートセンター長(兼)	山本 雅史
東京事務所長(兼)	戸谷 英雄
北海道事務所長	金子 雅美
名古屋事務所長	奥田 一巳
大阪事務所長	持田 亮 (4月就任)

編集  
発行



財団 法人 **河川環境管理財団**

編集事務局 企画調整部 03(3297)2617  
<http://www.kasen.or.jp/>

本部	〒104-0042 東京都中央区入船1-9-12 TEL 03-3297-2600 FAX 03-3297-2620 E-mail: info@kasen.or.jp
河川環境総合研究所・東京事務所	TEL 03-3297-2644 FAX 03-3297-2677 E-mail: info@kasen.or.jp
子どもの水辺サポートセンター	TEL 03-3297-2608 FAX 03-3297-2609 <a href="http://www.mizube-support-center.org/">http://www.mizube-support-center.org/</a> E-mail: msc@mizube-support-center.org
北海道事務所	〒060-0061 札幌市中央区南一条西7丁目16-2(岩倉ビル) TEL 011-261-7951 FAX 011-261-7953 <a href="http://www.kasen.or.jp/hokkaido/">http://www.kasen.or.jp/hokkaido/</a> E-mail: info-h@hkd.kasen.or.jp

名古屋事務所	〒450-0002 名古屋市中村区名駅4-3-10 TEL 052-565-1976 FAX 052-571-8627 <a href="http://www.kasen.or.jp/nagoya/">http://www.kasen.or.jp/nagoya/</a> E-mail: info-n@nagoya.kasen.or.jp
大阪事務所	〒570-0096 大阪府守口市外島町4-18(守口フィットネスリゾート内) TEL 06-6994-0006 FAX 06-6994-0095 <a href="http://www2.kasen.or.jp/">http://www2.kasen.or.jp/</a> E-mail: koehen@osakaj.kasen.or.jp
大阪研究所	〒540-0008 大阪市中央区大手前1-6-4(はなビル7F) TEL 06-6942-2310 FAX 06-6942-2118 E-mail: info-o@osaka.kasen.or.jp